

# 「会員実態調査から見てきた職能団体の役割と課題」 ～3回の実態調査を比較して見てきたこと～

○ 静岡福祉大学 檜木博之

## 要旨

静岡県医療ソーシャルワーカー協会（以下県協会）では、2008年・2012年・2019年に会員実態調査を行った。3回の実態調査の結果から、会員の实態、そして職能団体としての役割と課題が見えてきたので報告する。

## 1 目的

医療制度や介護制度が目まぐるしく変化し、医療ソーシャルワーカー（以下 MSW）もその影響の中で業務を行っている。このような状況の中、県協会では 2008 年・2012 年・2019 年に会員実態調査を実施し、協会運営の検討及び MSW の実態の把握を行ってきた。

本発表では 3 回の実態調査から見てきた会員の实態の変化、そして職能団体の役割と課題を明らかにしていくことを目的とする。

## 2 研究方法

2008 年・2012 年・2019 年に行った会員実態調査の結果をクロス表にまとめて分析を行った。各年の回収数・率は、2008 年 149 名・48.9%、2012 年 201 名・61.1%、2019 年 203 名・59.9% である。倫理的配慮として、依頼文にて研究目的を説明し回答をもって同意を得たこととした。また個人が特定されないように配慮している。

## 3 研究結果

以下①～⑨の項目について、2008 年・2012 年・2019 年ごとに%を示す。変化の著しいところを太字・下線で記載する。

### ①会員の年齢

20 歳代 33%・23%・20%、30 歳代 41%・45%・37%、**40 歳代 17%・18%・29%**、50 歳代 8%・7%・12%、60 歳以上 0%・5%・3%

### ②会員の経験年数

**4 年未満 36%・40%・22%**、5～9 年 33%・24%・30%、10～14 年 16%・17%・18%、15～19 年 9%・8%・14%、20～24 年 4%・5%・9%、25～30 年 1%・2%・5%、30 年以上 1%・1%・3%

### ③保有資格

**社会福祉士 72%・78%・86%**、精神保健福祉士 24%・22%・28%、介護福祉士 11%・15%・16%、介護支援専門員 44%・36%・37%、看護師 1%・2%・3%

### ④勤務する機関

**病院 71%・73%・82%**、診療所 2%・3%・3%、**介護老人保健施設 15%・15%・8%**

### ⑤加入している職能団体（県協会以外）

日本医療社会福祉協会 22%・23%・29%、**社会福祉士会 34%・40%・29%**、静岡県精神保健福祉士協会 10%・6%・4%、日本精神保健福祉士協会 4%・4%・3%、市町介護支援専門員団体 14%・6%・3%

### ⑥研修に参加した団体

**県協会 71%・69%・57%**、日本医療社会福祉協会 13%・18%・20%、**社会福祉士会 31%・41%・16%**、精神保健福祉士協会 7%・7%・1%、厚生労働省 6%・3%・4%

### ⑦県協会に期待する研修内容（2008 年無）

各種制度 58%・57%、面接技術 42%・35%、アセスメント 35%・33%、事例検討 42%・36%、**価値・倫理 14%・26%**、記録 26%・18%、**他団体合同 16%・9%**、**会員間ネットワーク 36%・15%**、研究・プレゼンテーション 19%・10%、スーパーバイザー養成 24%・14%

### ⑧研修を受ける上での問題点

時間の確保 80%・78%・86%、研修費用 31%・22%・26%、情報不足 5%・7%・4%

### ⑨県協会に期待すること

**研修 56%・63%・65%**、**ネットワーク作り 72%・56%・57%**、スーパービジョン 29%・30%・21%、制度等の情報 53%・48%・45%、社会活動 17%・17%・11%、資格化運動 12%・7%・6%

## 4 考察

国家資格を保有している会員が増加しているが、職能団体の加入率は下がっている。また研修への参加率も下降している。MSW が MSW の職能団体に参加し、MSW としての研修を受講する傾向にある。職能団体として会員ニーズに応えていくことが役割として考えられる。